

新型コロナウイルス感染症 感染防止の基本



各種支援の詳細を含む
新型コロナウイルス感染症に関する最新情報はこちら



都内では、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が増加傾向にあり、市内でも感染者が確認されています。

症状がない人でも感染させる可能性があるため、感染リスクはゼロではないという危機意識を持ち続け、手洗いや消毒の徹底、マスクの着用、3つの密(密閉・密集・密接)の回避などの基本的な感染防止対策の徹底をお願いします。

図新型コロナウイルス感染症対策担当 ☎481-7233

⚠️ 飛沫感染だけでなく、接触感染にも注意

飛沫感染

感染者の飛沫(くしゃみ、咳、つばなど)を口や鼻などから吸い込んで感染。マスクの着用で飛沫を飛ばさない。



小まめに手を洗いましょう



手洗いの5つのタイミング

- 外から帰った時
- 咳やくしゃみ、鼻をかんだ時
- 食事をする前と後
- 病気の人をケアした時
- 外にあるものを触った時

(参考:厚生労働省HP)

手洗い前の手で直接、目、口、鼻を触らないようにしましょう

接触感染

ウイルスが付着した手で、目や口、鼻を触ると粘膜から感染。こまめな手洗いや手指消毒を。

人が無意識に顔を触る回数(1時間の平均) 23回
そのうち目、口、鼻などの粘膜に触るのは **44%**



新型コロナウイルス感染症が心配な時

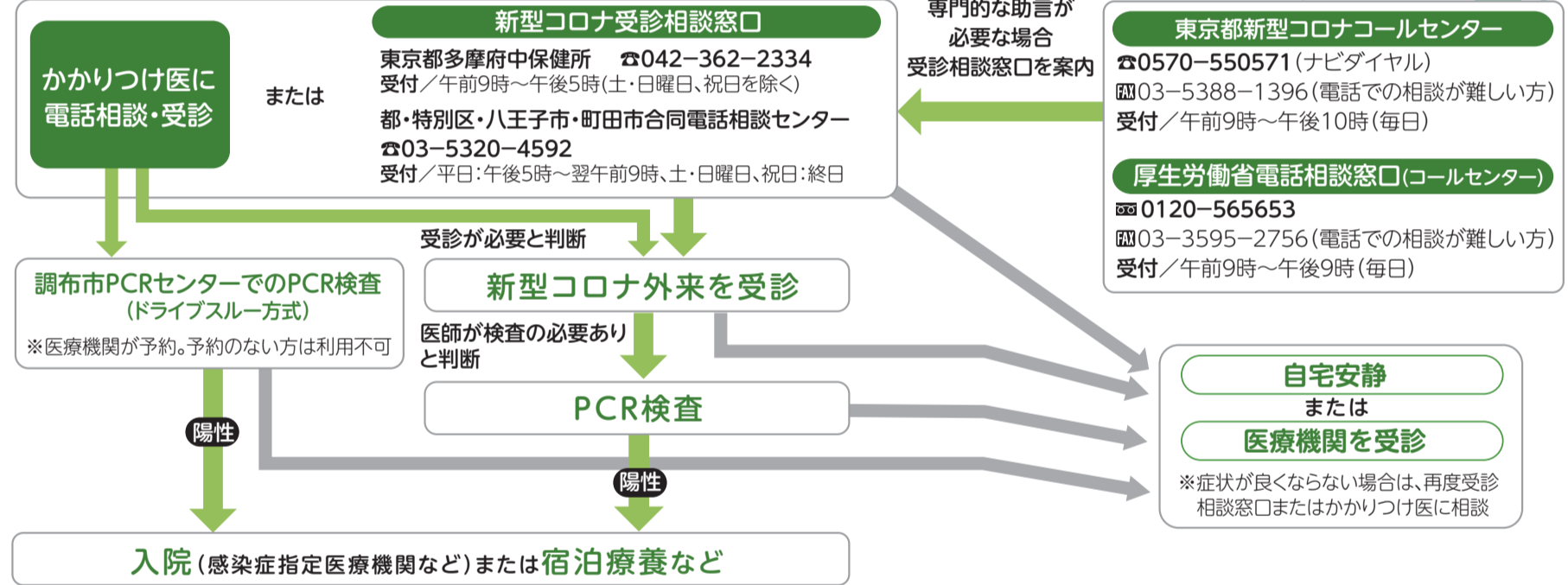
受診前に必ず電話をしましょう



- 「息苦しさ」「強いだるさ」「高熱」などの強い症状がある場合
- 発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が続いている場合
- 高齢の方・基礎疾患がある方・妊婦の方で発熱や咳など比較的軽い風邪の症状がある場合

不安に思う方

- 感染したかもしれないと不安
- 感染予防法が知りたい



パラハートちょうふ

つなげよう、ひろげよう、共に生きるまち 2020

知っておきたい/思いやり防災

災害時は、障害者・高齢者・乳幼児・外国人など配慮が必要な方も安全に避難できるように、地域で手を差し伸べ助け合う「思いやり」がいつも以上に大切です。「困っている方がいたら声をかける」など、皆さんのちょっとした思いやりが、配慮を必要としている人の安心につながります。

今回は、視覚障害のある方への支援のポイントを紹介します。

- ◆視覚障害のある方が災害時に困ることの例
- 周囲の状況が分からないため、どのように行動すればよいか判断が困難
- 被害状況や避難場所などの情報を得ることが困難な場合がある
- 避難場所の張り紙や掲示物が見えないため、お知らせの内容を把握できない

- 体育館など広く大勢の人や物がある避難所では、一人で行動することが困難
- 視線や顔の向きを相手に合わせられず誤解され、コミュニケーションが取れず孤立してしまう場合がある
- 盲導犬の役割が理解されておらず、ペットとみなされてしまう場合がある

◆移動・誘導するときのポイント

- どのように誘導すればよいか、本人に確認
- 誘導時は、肩や肘などにつかまってもらい、半歩前を歩く
- 本人から離れる場合は、今いる場所を伝え、安全につかまることができるものがある場所や座れる場所まで誘導する



◆避難所での支援のポイント

- 現在いる場所や周囲の位置関係が把握しやすい場所(入り口の近くなど)で過ごせるように配慮する
- 本人が初めて利用するトイレに誘導する時は、個室の中まで案内し、使用方法や便座、トイレトペーパーの位置などのトイレの中の様子も伝える
- 掲示・表示物は内容を読み上げて伝える
- 必要な食料や救援物資は、手渡しで配布する
- 申請書など書類の記入を頼まれた時は、必要に応じて代筆する
- 避難所運営者と相談して、盲導犬と本人と一緒に過ごせるように配慮する

これらの内容は、「障害のある方への災害時支援ガイド」「高齢者・乳幼児・外国人など支援が必要な方への災害時支援ガイド」に掲載しています。

配布場所/福祉総務課(市役所3階)、神代出張所、地域福祉センター、市民活動支援センター、総合福祉センター 市HP(右記2次元コードからアクセス可)で閲覧可



◆発熱者外来を実施する市内医療機関

かかりつけ医がない、かかりつけ医が発熱時の診察をしていない場合は、発熱者外来を実施する医療機関にご相談を。発熱者外来を実施する調布市内医療機関は市HP(右記2次元コードからアクセス可)参照。受診前に各医療機関に要問い合わせ。

